昭和６２年度厚生省心身障害研究
「川崎病に関する研究」

川崎病における静注用アスピリンの効果
（分担研究：川崎病の病因ウイルスの探求）

柳川　幸重，野間　清司，岩田　　力，早川　　浩，赤城　邦彦，
竹内　治子，田中　敏章，吉原　昭次，鴨下　重彦

要約　静注用アスピリンは，経口アスピリンと異なり肝障害を発生させることはなかった。冠動脈病変の発生率は１カ月以内では３６％であるが，病変は１年後には全例正常化していた。川崎病における静注用アスピリンの使用は，γグロブリンと比較しての安価なことを考えると充分検討するに足ると思われた。

見出し語：

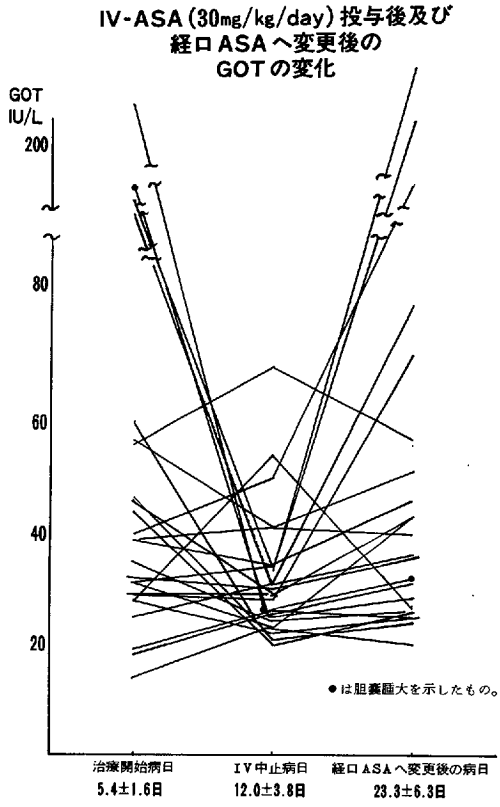
研究方法　経口アスピリン投与による川崎病治療と，その他の治療法の冠動脈瘤発生率の比較の問題点の一つには，アスピリンの腸管における吸収率が明確でない点がある。我々は確実にアスピリンの血中濃度を上昇させる手段として静注用アスピリン（以下ＩＶ－ＡＳＡ）を川崎病の治療に用い，治療中のＧＯＴ・ＧＰＴの変化，一ケ月後，及び一年後の冠動脈発生率を検討した。

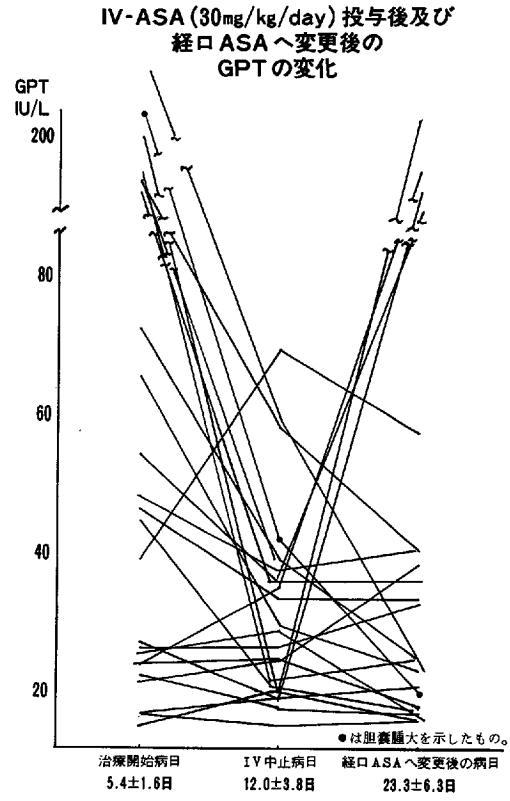
対象は昭和５９年１２月より昭和６１年１２月までに東大分院へ入院した２カ月から５歳９カ月（平均１歳７カ月の）２５名の川崎病の確実例，男児１２例，女児１３例である。これらに，ＩＶ－ＡＳＡ（アスピリンとして３０mg/g/日分３）による治療を第７病日以内に開始した。

症状による初期治療の変更はせず，連続的に入院する患児に対し同じ治療を続けた。（γグロブリンを用いた１例があり，これは検討から除外した。）ＩＶ－ＡＳＡによる治療は，解熱後２日以上続け，その後は経口アスピリン３０mg/kg/日に変更した。入院当日に断層心エコーを行い，その後は定期的に経過観察した。入院当日，ＩＶ－ＡＳＡ中止日，及び経口アスピリン３０mg/kg/日に変更した後より少量に変更する日，のＧＯＴ，ＧＰＴの変動を検討した。

結果　ＧＯＴ，ＧＰＴに対するＩＶ－ＡＳＡの影響を見ると，治療開始時にＧＯＰ，ＧＰＴの高かった症例も，ＩＶ－ＡＳＡによって増悪することはなく，少数の例外を除いては解熱と共に低下した。その後，経口アスピリンの開始と共にＧＯＴ，ＧＰＴ共に再び高値を示している症例は病初期に高値を呈した症例であった。（図参照）有熱期間は１０±4.3日，ＣＲＰ（－または±）までの期間は１6.6±6.4日であった。発症１カ月での冠動脈瘤の発生は２５例中９例（３６％）であり，発生日は平均第１３病日（12.88）（５－１６日）で，全例拡張またはANsであり，内２例ではANsが両側にみられた。しかしながら，これらの冠動脈は一年後にはすべて正常化していた。

東京大学医学部小児科（The University of Tokyo, Dept of Pediatrics.）





考察　静注用アスピリンは，ＧＯＴ，ＧＰＴの高い症例にも使用可能である。１カ月以内の冠動脈病変の発生率は，３６％であるが１年後には冠動脈は正常化しており，川崎病における静注用アスピリンの使用はそのγグロブリンによる治療と比較しての安価なことを考えると充分検討するに足ると思われた。

文　献

1）田中敏章他：川崎病に対する静注用アスピリンを用いた急性期の治療，小児科診療，47(10) 1859－1864,1984

2）星野明彦他：川崎病におけるヴェノピリン療法の効果，治療６９（８）第６回川崎病研究会報告，2239,1987

3）風間浩美他：MCLSの治療法の検討－特にVenopirin療法を中心に－　治療69(8) 第6回川崎病研究会報告，2240,1987

Abstract

Effect of Intravenous-aspirin for Kawasaki Disease.

Y Yanagawa, S Noma, T Iwata, H Hayakawa, K Akagi, H Takeuchi, T Tanaka, S Yoshihara, S Kamoshita.

Intravenous-aspirin therapy for Kawasaki disese is safe and efficacious for prevention of persistent coronay artery lesion.

Twenty five consecutive patients of Kawasaki disease were treated with intravenous-aspirin (aspirin-DL-lysine : IV-ASA) within 7 days of the onset. Liver enzymes were monitored and coronary arteries were followed periodically with 2D echo for 1 year. GOT and GPT was not increased with IV-ASA, even in cases showing initially high level of these enzymes. At 1 month after the onset of the disease, coronary artery lesions were recorded in 36% of the patients, and all of them reduced to normal after 1 year. IV-ASA was safe for the Kawasaki disease patients with liver dysfunction, and it was efficacious for prevention of persistent coronary artery lesion. Considering its low price in comparison with gamma-globulin, it is worth while to try IV-ASA therapy for Kawasaki disease.

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約 静注用アスピリンは,経口アスピリンと異なり肝障害を発生させることはなかった。冠動脈病変の発生率は1ヵ月以内では36%であるが,病変は1年後には全例正常化していた。川崎病における静注用アスピリンの使用は,r グロブリンと比較しての安価なことを考えると充分検討するに足ると思われた。